

令和3年度 59回生 授業概要（シラバス）

科目名	日常生活活動の場を整える 看護技術Ⅰ（環境）	分野/教育内容	専門分野Ⅰ/基礎看護学
開講年次・時期	1年前期 令和3年4月30日	単位数/時間	1単位/30時間 日常生活活動の場を整える看護技術Ⅰは ①姿勢を保つ・活動を整える：18時間 ②環境：12時間 を合わせて1単位となる
担当講師名	山根 智草	所属・役職	宮古高等看護学院・主任看護教員
		資格・免許	看護師
授業の概要	患者の環境を正確に把握し、清潔で安全・安楽な環境を整え、患者が心地よく入院生活を送れるような援助方法について学ぶ。		
到達目標	1. 療養生活の環境を構成する要素と病室・病床の環境調整の方法を理解する 2. 清潔で安全な寝心地のよいベッドを提供するための技術を習得する		
事前学習内容	テキストの該当ページを読み、事前学習した上で（自分なりにまとめる）授業に臨むこと。 ※第1回は事後学習で構わない		
成績評価の方法	・筆記試験による評価（40点） ・事前学習に取り組んだもの（5点）→第6回目の朝8時50分までに提出		
使用テキスト	①基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社 ②看護技術ベーシックス サイオ出版 ③看護覚え書（第1回のみ使用）現代社		
授業回数	授業概要(主な学習内容)	テキスト	授業形態
第1回	環境調整の意義と援助の目的 療養環境を構成する要素	①：p2～10 ②：p90～97	講義
第2回	療養環境を調整する視点	②：p94～97	講義、GW
第3回	病床環境の調整①ベッド周囲の環境調整	①：p10～13 ②：p94	講義、演習
第4回・5回	病床環境の調整②ベッドメイキング	①：p13～18 ②：p98～107	演習
第6回	病床環境の調整③リネン交換	①：p19～20 ②：p108～113	演習
履修上の留意点	・質問には、はっきりとした反応を示すこと。 ・第4回～6回の演習の際は、身だしなみを整えて演習に臨むこと。 ・演習内容で分からないこと、確認したいことは、その場で相談すること。 ・看護技術を習得できるように、授業以外でも積極的に自主練習に取り組むこと。		

令和3年度 59回生 授業概要(シラバス)

科目名	日常生活活動の場を整える 看護技術Ⅰ(姿勢・活動)	分野/教育内容	専門分野Ⅰ/基礎看護学
開講年次・時期	1 年前期 2021 年 5 月 18 日	単位数/時間	1 単位/30 時間 本科目は以下の 2 単元で構成 される ・ 環境：12 時間 ・ 姿勢・活動：18 時間
担当講師名	山本 穰	所属・役職	専任教員
		資格・免許	看護師
授業の概要	1. 患者・看護者とも安全・安楽で効果的な動きについて理解する 2. 日常生活の自立を支える看護技術(体位変換、移動など)を習得する		
到達目標	1. ボディメカニクスの基本を理解し、看護実践の場で活用できる 2. 運動機能の低下した患者の車椅子・ストレッチャーの移乗と移送ができる 3. 運動機能の低下した患者の座位保持・起立動作・歩行の援助ができる 4. 体位変換に必要な知識・技術を習得し、看護実践の場で応用できる		
事前学習内容	解剖学で学習した、筋・骨格に関連する内容		
成績評価の方法	本科目全体で 100 点満点のうち、本単元の配点は 55 点であり、試験で評価する。 <u>授業中寝てしまい、講師に注意されたらその都度 1 点減点</u> する。本科目の 2 単元の合計点が 60 点未満/100 点の場合は、2 単元全て再試験となる		
使用テキスト	1. 新体系看護学全書 基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ(メヂカルフレンド社) 2. 新体系看護学全書 基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ(メヂカルフレンド社)		
授業回数	授業概要(主な学習内容)		授業形態
第 1 回	看護における安楽の意義、基本的な体位		講義
第 2 回	ボディメカニクスの基本		
第 3 回	様々な安楽確保の技術、人間と運動・休息		
第 4 回	廃用症候群、活動と休息のアセスメント		
第 5～7 回	体位、体位変換、安楽な体位		演習
第 8 回	移乗(車椅子、ストレッチャー)		
第 9 回	移送(車椅子、ストレッチャー)、歩行介助		
履修上の留意点	1. 演習時はグループ単位での学習が多くなる。他グループへの影響を考慮し、騒がしくならないようにする 2. 演習時は学生どうしの体の接触の機会が多いが、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、必要時以外はソーシャルディスタンスを心がける 3. 演習時には、事前に身だしなみを学生どうしでチェックする 4. 演習時、ベッドからの転落や、移送時の転倒など危険が予測される。けがをしないように、安全には十分に注意する 5. 上記の授業概要(主な学習内容)は暫定である。授業の進捗状況次第で変更の可能性あり		

令和3年度 59回生 授業概要（シラバス）

科目名	日常生活活動の場を整える看護技術Ⅱ (清潔・衣生活)	分野/教育内容	専門分野Ⅰ/基礎看護学
開講年次・時期	1 年前期 令和 3 年 5 月 26 日	単位数/時間	1 単位/30 時間
担当講師名	畠山 千章	所属・役職	宮古高等看護学院 教員
		資格・免許	看護師
授業の概要	身体各部や衣類の清潔が生体や精神に及ぼす影響、援助時の看護の役割を理解し、対象の状態に合わせた日常生活に関する基本的援助技術について学ぶ。		
到達目標	1．衣生活・清潔の意義を理解できる 2．演習を通して、基礎的な看護技術の原理原則を理解できる 3．対象の安全・安楽に配慮した実践方法を習得できる		
事前学習内容	第 1 回目の授業は <u>皮膚・粘膜の構造と機能について事前学習</u> してきてください。 第 2 回目以降は、都度課題を提示します。		
成績評価の方法	1．終講試験による評価 2．課題レポートの提出状況（提出期限の遅れや内容が不十分だった場合は終講試験の結果から減点） 3．出席状況（学則に準ずる）		
使用テキスト	・基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ（メヂカルフレンド社、第 4 版第 5 刷、2020） ・新訂版 看護技術ベーシックス（サイオ出版、第 2 版第 5 刷、2019）		
授業回数	授業概要(主な学習内容)		授業形態
第 1 回	清潔を保持する意義、各清潔援助技術の身体への影響・留意点①		講義
第 2 回	各清潔援助技術の身体への影響・留意点②		講義
第 3 回	臥床患者の手浴		演習
第 4 回	臥床患者の足浴		演習
第 5 回	誤嚥のリスクがない患者の口腔ケア		演習
第 6 回	誤嚥のリスクがある患者の口腔ケア		演習
第 7 回	臥床患者の寝衣交換		演習
第 8 回	麻痺患者の寝衣交換、点滴を行っている患者の寝衣交換		演習
第 9 回・第 10 回	臥床患者の全身清拭		演習
第 11 回	臥床患者のおむつ交換		演習
第 12 回・第 13 回	臥床患者の陰部洗浄		演習
第 14 回・第 15 回	洗髪車・ケリーパッドを用いた洗髪		演習
	終講試験		
	※夏季休暇中に爪切り、髭剃り・耳掃除・洗髪の自宅での演習課題があります。 ※夏季休暇明けより、清潔援助の技術チェックを実施します。		
履修上の留意点	・演習前は、身だしなみチェックリストに準じて <u>身だしなみを整え演習に臨んでください</u> ・演習に臨む際は、 <u>患者・看護者役に徹し</u> 、それぞれの体験を通して対象に合わせた <u>看護実践を迫及</u> しましょう ・主体的に自己演習に励み、技術・知識の向上にむけて <u>研鑽</u> しましょう ・演習前には、必要物品やベッドメイキングの指示を出します。準備・後片付け・清掃は <u>協力し合い責任</u> を持って行ってください。 ・演習時に個人のタオルや洗浄剤等が必要になる場合があります。忘れずに準備をしてください。		

令和3年度 59回生 授業概要（シラバス）

科目名	日常生活活動の場を整える看護技術Ⅲ （食事）	分野/教育内容	専門分野Ⅰ/基礎看護学
開講年次・時期	1 年後期 令和 3 年 8 月 18 日	単位数/時間	1 単位/30 時間 日常生活活動を整える看護技術Ⅲは、 食事:12 時間、睡眠・休息:2 時間、排泄:16 時間 を合わせて 1 単位となる
担当講師名	畠山 千章	所属・役職	宮古高等看護学院 専任教員
		資格・免許	看護師
授業の概要	健康生活 における食事の意義を理解し、食事制限や食事を摂取する機能の障害が対象に及ぼす影響を理解するとともに、それぞれの対象に適した食事援助の方法を習得する		
到達目標	1. 食事の意義を理解できる 2. 栄養・食事に関するアセスメントを理解できる 3. 対象に合わせた食事介助の方法と留意点を理解できる 4. 栄養摂取方法の種類を理解できる		
事前学習内容	消化器系の構造と機能、三大栄養素の消化と吸収について自己学習ノートにまとめる		
成績評価の方法	終講試験（40 点）		
使用テキスト	基礎看護技術Ⅱ（メヂカルフレンド社） 看護技術ベーシック（サイオ出版） フィジカルアセスメントアドバンス（インターメディカ） 電子辞書		
授業回数	授業概要(主な学習内容)		授業形態
第 1 回	食事の意義、食事に関連する生理学的メカニズム		講義
第 2 回	栄養状態および食欲・摂食能力のアセスメント		講義
第 3 回	医療施設における食事の特徴、食事介助方法		講義
第 4 回・第 5 回	食事介助演習		演習
第 6 回	経管栄養法と経静脈栄養法		講義
	終講試験		
履修上の留意点	・教科書、事前に配布される資料を必ず熟読してから授業に臨むこと。 ・演習には真摯な態度で臨み、技術習得に精進すること。 ・分からないことをそのままにせず、疑問を解決するための行動を積極的にとること。 ・食事介助の演習は、各自の弁当を使用し昼食として実施する予定。		